

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：34426

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12909

研究課題名（和文）相対的業績評価指標の開示と製品市場での競争

研究課題名（英文）Disclosure policy for relative performance indicators under product market competition

研究代表者

濱村 純平（Hamamura, Jumpei）

桃山学院大学・経営学部・准教授

研究者番号：30803580

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、寡占競争市場に直面する企業が、競争相手に対して相対的業績評価におけるウェイトを開示するのが最適かどうかを調査した。その結果、市場で起きている競争が数量競争か価格競争下によって結果が異なることを示している。また、近年、経営者の業績評価方法の開示が規制を考えるうえでの重要な焦点の1つとなっている。本研究ではこの問題にも着目して、企業の開示戦略が社会に対してどのような影響を与えるかを分析した。その結果、数量競争下では可能な限り開示することが望ましいのに対し、価格競争下では業績評価方法の開示が、社会にとって悪影響を与えることを示している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、企業の業績評価方法の開示が企業にとって最適かどうか、また社会にとって良い結果をもたらすかを分析している。したがって、本研究の分析結果は、ケースごとに合わせた企業の最適な意思決定に関する示唆を与えるといえる。また、それだけでなく、市場や企業が直面する状況に応じて、経営者の業績評価方法を開示することが社会にとっては最適でないことを示している。そのため、一方的に経営者の業績評価方法を開示する法改正を行なうことが、必ずしも社会にとって良い成果をもたらすとは限らないことを示唆している。以上から、企業の意思決定だけでなく、企業の開示情報に関する規制を議論している点で社会的な意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we investigate whether it is optimal for firms facing oligopolistic competitive markets to disclose their weights in relative performance evaluation to their competitors. From our analysis, we demonstrate that, depending on whether the competition taking place in the market, optimal decision-making of disclosure is different. In addition, in recent years, one can infer that disclosure policy of management's performance evaluation systems has become one of the key focal points for regulatory considerations. In this study, we also focus on this issue and analyze how firms' disclosure strategies affect total surplus. As a result, we demonstrate that under quantity competition, it is desirable to disclose as much as possible, whereas under price competition, the disclosure of performance evaluation systems has negative consequences for total surplus.

研究分野：会計学

キーワード：相対的業績評価 開示戦略 委任ゲーム 非協力ゲーム理論 寡占競争市場 業績評価

1. 研究開始当初の背景

本研究の軸となるテーマは相対的業績評価研究である。業績評価はマネジメント・コントロールの一環として管理会計分野で盛んに研究が行われている。相対的業績評価は業績評価の中でも、マネージャー同士を競わせることで業績を評価する方法として研究が蓄積されてきた (Holmstrom 1982; Matsumura and Shin 2006 など)。たとえば、2人のマネージャーがいるとき、より業績の高いマネージャーにはボーナスを与えるが、もう片方のマネージャーにはボーナスを与えないようにするのが相対的業績評価である。数理モデルによる相対的業績評価研究の多くは、Holmström (1982)のように契約理論を用いて行われるが、製品市場での競争を仮定した研究も行われている (Aggarwal and Samwick 1999; Fumas 1992 など)。

先行研究では以下の図1の状況が想定され、製品市場での戦略的關係に注目することで、経営者の相対的業績評価を議論している。まず、製品市場で競争に直面する企業が2社以上存在し、その企業の経営者はオーナーから業績評価される。そして経営者は業績評価に基づく報酬を受け取ることとなる。製品市場での競争を仮定した研究は、たとえば、企業1の経営者の業績を測定する際に、企業2の利益を参照して評価が行われるという特徴がある。つまり、企業1の業績が企業1の利益だけでなく企業2の利益も用いて決定されることとなる。

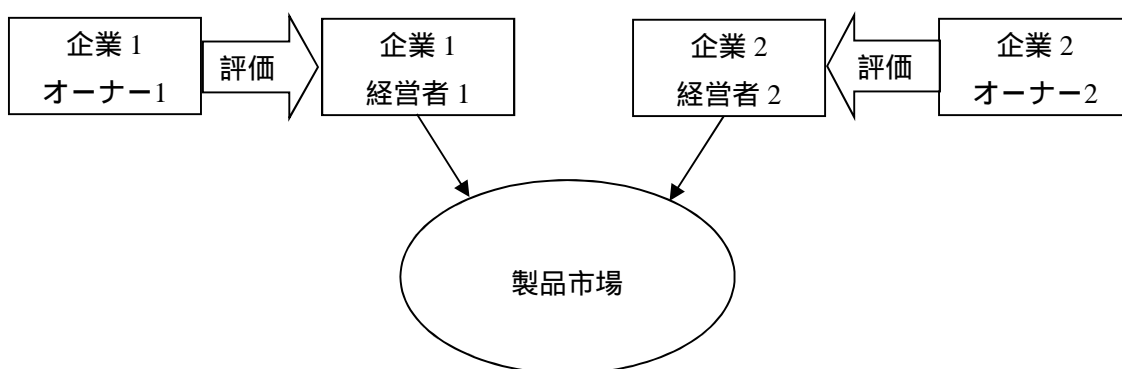


図1: 製品市場での競争を仮定する研究で想定される状況

本研究でもこの状況を想定する。具体的には企業1の業績評価 $O_1$ は次のように決定される。

$$O_1 = \pi_1 + \alpha_1 \pi_2,$$

ただし、 $\pi_1$ は企業1の実現利益、 $\pi_2$ は企業2の実現利益、 $\alpha_1$ は業績評価において相手企業の利益に付ける重みづけである。たとえば、 $\alpha_1 = 0$ なら自社の利益のみによって業績評価が決まる絶対的業績評価である。したがって、 $\alpha_1$ の水準を決定することが、企業1の業績評価システムを決定することと一致する。また、 $\alpha_1 < 0$ であれば、相手の利益をどれだけ上回ることができているかによって業績評価されていることとなり、Matsumura and Shin (2006)などが想定する一般的な相対的業績である。解釈が難しいのは $\alpha_1 > 0$ のときだろう。このとき、自分と相手とともに利益を高めれば高めるほど企業1の業績評価は改善することとなる。このような相対的業績は一般的に知られてはいないが、Vrettos (2013)によるとアメリカの航空産業において特定の企業が利用している。また、Fumas (1992)や Aggarwal and Samwick (1999)も理論的にこれが成り立つことを証明しており、理論・実務の両面から考えて支持される結果である。ちなみに、企業2も同様の業績評価に直面している場合を想定して分析する。

なお、Fumas (1992)や Aggarwal and Samwick (1999)では、最初に両オーナーが経営者の業績評価システムを決定し、次の段階で両経営者が市場での数量もしくは価格などの戦略変数を決定するという流れでイベントが進む。

ここで重要なのは、 $\alpha_1$ の水準が競争相手から観察可能であるかどうかである。なぜなら、 $\alpha_1$ は次の段階で両経営者が戦略変数を決定する際に、どういった戦略変数を選択するかというコミットメントデバイスとなるためである。たとえば、 $\alpha_1 < 0$ のとき、相手企業の利益が下がれば自身の業績は改善する。そのため、経営者はなるべく相手の利益にダメージを与えるような戦略をとることにコミットしているといえる。

しかし、過去の研究ではこの $\alpha_1$ が観察可能だと仮定して分析を行っている。 $\alpha_1$ は業績評価システムであるため、これを開示するかは企業も慎重になっているはずである。そのため、本研究ではこの $\alpha_1$ を開示するかどうかを分析する。つまり、本研究の問いは「相対的業績評価を採用する場合、経営者は業績評価指標 ( $\alpha_1$ ) を先行研究のように競争相手に開示するのか」である。もし業績評価指標を開示しなければ、競争相手はこちらの業績評価指標を予想して市場での戦略を

決定することになるため、開示している場合とは行動が変わるはずである。

#### <参考文献>

- Aggarwal, R., and A.A. Samwick. 1999. Executive compensation, strategic competition, and relative performance evaluation: Theory and evidence. *Journal of Finance* 54(6): 1999-2043.
- Darrough, M.N. 1993. Disclosure policy and competition: Cournot vs. Bertrand. *The Accounting review* 68(3): 534-561.
- Fumas, V.S. 1992. Relative performance evaluation of management: the effects on industrial competition and risk sharing. *International Journal of Industrial Organization* 10(3): 473-489.
- Holmström, B. 1982. Moral hazard in teams. *Bell Journal of Economics* 13(2): 324-340.
- Matsumura, E.M., and J.Y. Shin. 2006. An empirical analysis of an incentive plan with relative performance measures: Evidence from a postal service. *The Accounting Review* 81(3): 533-566.
- Vrettos, D. 2013. Are relative performance measures in CEO incentive contracts used for risk reduction and/or for strategic interaction? *The Accounting Review* 88(6): 2179-2212.

## 2. 研究の目的

本研究では、寡占競争に直面する企業が、自社の業績評価指標を競争相手に開示するかどうかを分析することが目的である。また、企業の開示戦略が社会にどのような影響を与えるかも分析する。

## 3. 研究の方法

産業組織論でよく利用される寡占競争のモデルを応用し、数理モデルを構築することで、分析的な方法により研究目的を遂行する。

## 4. 研究成果

当初計画していた研究成果を得るために、本研究では重要な以下の仮定を置いた。

数量競争のケースと価格競争のケースを考慮する  
競争に直面する企業の限界費用が非対称

特に、この仮定は本助成の成果の一部である Hamamura (2021b)の結果を受けたために設定した（なお、この設定は同様に相対的業績評価を考えた Hamamura (2022)や濱村 (2021e)にも応用されている）。この仮定が本研究の重要な結果を導くドライビング・フォースの1つとなっている。上記の仮定のもと、得られた結果は以下のとおりである。まず、価格競争では両企業が開示するのが最適になる。対して、数量競争ではコストが有利な企業は常に開示するものの、パラメータの組み合わせによってコストが不利な企業の戦略が変化する。すなわち、市場のサイズが大きい（競争が緩やかな）ときには開示し、市場のサイズが小さい（競争が激しい）ときには開示しないという結果が得られた。さらに、社会的余剰について数量競争では、両企業による開示が消費者余剰と社会的余剰を改善することを示した。しかし、価格競争では業績指標の開示が、社会的に望ましくない結果を招くことを示した。なお、この研究を実施するために行なったレビューを濱村 (2022)としてまとめた。

上記の研究を1つの論文としてまとめ、現在、ワーキングペーパーとして Social Science Research Network に公表している (Hamamura 2021a)。本論文は American Accounting Association だけでなく、国内の学会でも複数回報告することで、論文のブラッシュアップを進めた。まだ査読付き論文として受理されていないが、現在会計学の国際学術誌を中心に投稿を進めている。

日本でも2021年3月に施行された新たな会社法に基づいて、経営者の業績評価に関する情報が広く開示されるようになる。本研究の重要な問題意識は、果たしてこのような強制開示が社会にとって有用かという点である。本研究の結果に基づけば、経営者の業績評価の開示について、規制当局は慎重になるべきであることがわかる。市場の状況をみることで、企業の業績評価に関する開示戦略がどのような影響を与えるかを十分に考慮して規制を行なうべきであるといえる。

また、研究当初の目的と大きく関連し、相対的業績評価に関する理論研究を複数行なうことができた。この成果が Hamamura and Hayakawa (2019)、と濱村 (2020c)である。加えて、相対的業績研究で応用した委任ゲームを使った研究も実施することができた。この成果が、Hamamura (2019, 2020, 2021e)、濱村 (2020a, d, 2021b)、Hamamura and Hirao (2022)である。さらに、相対的業績評価に関する実証研究を行なうことで、理論と実務のつながりをより深く議論した。その成果が、井上ほか (2021)である。

また、上記の内容は相対的業績評価に関する理論研究の成果であるが、この主要な分析を行なうにあたり、さまざまな副産物的な研究を実施できた。たとえば、相対的業績評価研究でも使用した寡占競争のモデルを応用して、Hamamura (2019, 2021d)、濱村 (2019a, b, 2020b, 2021d)は振替価格に関する研究を、Hamamura (2021c)、Hamamura and Zenryo (2021)、Hamamura and Hirao (2022)

はサプライチェーンに関する研究を、Hamamura and Kurita (2021)は多国籍企業の租税回避に関する研究を行なった。また、相対的業績評価はチーム内での業績評価が重要になるため、これに関連した Hamamura and Yamada (2022)はチーム内でのメンバーの行動に関する研究を行なっている。

さらに、上記の研究は理論研究が中心であるため、そういった研究の意義を補強するために、管理会計研究における理論研究の役割を濱村 (2021a)としてまとめている。理論と実証は関係が深く、理論研究は実証研究を行なううえで有用な予測を提供する。この考え方をもとに、企業のコストに関する実証研究や、管理会計情報とつながる財務会計情報の実証研究も行なった(福嶋ほか 2020; 福嶋ほか 2022; 加藤ほか 2019; Kato et al. 2019)。当初予定していた研究では、コストに関する仮定は考えていなかったが、こういった研究をもとにして重要な仮定が導かれたため、本研究の成果を生み出すためには重要な取り組みとなった。また、Hamamura et al. (2020)は、相対的業績評価研究でも使用した寡占競争のモデルをベースとして理論を構築し、その予想に基づいて実証研究を行なっている。

最後に、これらの研究成果や、レビューを活用して書籍『寡占競争企業の管理会計』(濱村 2021c)を執筆することもできた。この書籍では、振替価格と業績評価に焦点を当てており、当然、相対的業績評価に関する内容にも深く踏み込んでいる。

#### <参考文献(本助成による研究成果)>

- 福嶋誠宣・濱村純平・井上謙仁. 2020. 「財務データのサンプリングにおける時点設定の問題」『管理会計学』 28(1): 117-129.
- 福嶋誠宣・加藤大智・濱村純平. 2022. 「需要変動の予測可能性がコスト構造に与える影響」『会計プロGRESS』 近刊.
- 加藤大智・早川翔・濱村純平. 2019. 「経営者業績予想におけるコスト予想のビヘイビア」『経済経営論集』 61(1): 17-35.
- Kato, D., S. Hayakawa, and J. Hamamura. 2020. *Does debt intensity have an impact on cost behavior? Evidence from Japan*. Available at SSRN: ID 3734486.
- Hamamura, J. 2019. Unobservable transfer price exceeds marginal cost when the manager is evaluated using a balanced scorecard. *Advances in Accounting* 44: 22-28.
- Hamamura, J. 2020. *Does a leading indicator related to a customer improve a firm's profit?* Available at SSRN: ID 3611562.
- Hamamura, J. 2021a. *Disclosure policy for relative performance indicators under product market competition*. Available at SSRN: id 3779116.
- Hamamura, J. 2021b. What level do disadvantaged firms weight rivals' profits in relative performance evaluations under quantity competition? *Managerial and Decision Economics* 42(2): 493-501.
- Hamamura, J. 2021c. *Manufacturer encroachment in a product market and common ownership between supply chain parties*. Available at SSRN: ID 3927240.
- Hamamura, J. 2021d. Cost-based transfer pricing with the existence of a direct channel in an integrated supply chain. *Journal of Modelling in Management*. In press.
- Hamamura, J. 2021e. Environmental corporate social responsibility and strategic transfer pricing in quantity competition. *Economics Bulletin*, 41(4): 2338-2347.
- Hamamura, J. 2022. Weight assigned to a rival's profit by an advantaged firm in relative performance evaluation with Cournot-Bertrand competition. *Managerial and Decision Economics*, In press.
- 濱村純平. 2019a. 「費用削減投資と市価基準振替価格」『管理会計学』 27(1): 93-108.
- 濱村純平. 2019b. 「並行輸入市場があるときの国際移転価格の設定基準選択」『会計プロGRESS』 20: 1-15.
- 濱村純平. 2020a. 「CSR を重視する企業における戦略的振替価格設定」『経済経営論集』61(4): 105-125.
- 濱村純平. 2020b. 「原価基準振替価格における全部原価計算と直接原価計算の選択 - 価格競争に直面する企業が広告により需要を拡大できるケース - 」『原価計算研究』 44(1): 169-181.
- 濱村純平. 2020c. 「並行輸入市場があるときの多国籍企業における相対的業績評価」『産業経理』 80(2): 126-136.
- 濱村純平. 2020d. 「費用削減投資と指令振替価格: 営業部門の顧客志向による影響」『企業会計』 72(11): 17-27.
- 濱村純平. 2021a. 「エビデンス・ベーストな管理会計研究と理論による予測」『管理会計学』 29(2): 23-34.
- 濱村純平. 2021b. 「費用削減投資と環境に配慮する経営者による指令振替価格設定」『原価計算研究』 45(1): 75-87.
- 濱村純平. 2021c. 『寡占競争企業の管理会計 - 戦略的振替価格と多元的業績評価のモデル分析 - 』中央経済社.
- 濱村純平. 2021d. 「費用削減投資と市価基準振替価格 - 上流部門の寡占競争による影響 - 」『経済経営論集』 63(1): 21-37.
- 濱村純平. 2021e. 「相対的業績評価におけるウェイト設定のタイミング」『経済経営論集』 63(2): 87-100.

- 濱村純平. 2022. 「寡占競争を仮定した経営者の相対的業績評価研究に関するレビュー」『経済経営論集』 63(3): 129-154.
- Hamamura, J., and S. Hayakawa. 2019. *The optimal choice of a relative performance indicator in product market competition*. MPRA paper ID 93921.
- Hamamura, J. and M. Hirao. 2022. *Effects of a socially concerned manufacturer on endogenous timing game in dual-channel supply chain*. Available at SSRN: ID 4113715.
- Hamamura, J., K. Inoue, T. Yoshikawa, and K. Arai. 2020. *Over-investment and product market competition*. Available at SSRN: ID 3738899.
- Hamamura, J. and K. Kurita. 2021. *Does stigma against tax avoidance improve social welfare?* MPRA paper ID 107173.
- Hamamura, J. and M. Yamada. 2022. *Lead or facilitate? When should an MBA-educated member decide on an action in team production?* Available at SSRN: ID 4093439.
- Hamamura, J. and Y. Zennyō. 2021. Retailer voluntary investment against a threat of manufacturer encroachment. *Marketing Letters*, 32(4): 379-395.
- 井上謙仁・尾関規正・濱村純平. 2021. 「財務報告の比較可能性と相対的業績評価：Nam (2020) の追試」『会計科学』 e2021(2): 1-5.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 21件）

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>福島誠宣・加藤大智・濱村純平  | 4. 巻<br>-             |
| 2. 論文標題<br>需要変動の予測可能性がコスト構造に与える影響   | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>会計プロGRESS   | 6. 最初と最後の頁<br>近刊      |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>濱村純平  | 4. 巻<br>45(1)         |
| 2. 論文標題<br>費用削減投資と環境に配慮する経営者による指令振替価格設定   | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>原価計算研究  | 6. 最初と最後の頁<br>75-87   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>濱村純平  | 4. 巻<br>29(2)         |
| 2. 論文標題<br>エビデンス・ベーストな管理会計研究と理論による予測  | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>管理会計学   | 6. 最初と最後の頁<br>23-34   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.24747/jma.29.2_23   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）   | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei   | 4. 巻<br>42(2)         |
| 2. 論文標題<br>What level do disadvantaged firms weight rivals' profits in relative performance evaluations under quantity competition? | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>Managerial and Decision Economics   | 6. 最初と最後の頁<br>493-501 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1002/mde.3249   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei   | 4. 巻<br>id 3779116 |
| 2. 論文標題<br>Disclosure policy for relative performance indicators under product market competition | 5. 発行年<br>2021年    |
| 3. 雑誌名<br>Social Science Research Network   | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.2139/ssrn.3779116  | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-          |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei, Kento Inoue, Takeshi Yoshikawa, and Kohei Arai | 4. 巻<br>id 3738899 |
| 2. 論文標題<br>Over-investment and product market competition                 | 5. 発行年<br>2020年    |
| 3. 雑誌名<br>Social Science Research Network                                 | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.2139/ssrn.3738899                          | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                    | 国際共著<br>-          |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Kato Daichi, Sho Hayakawa, and Jumpei Hamamura                            | 4. 巻<br>id 3734486 |
| 2. 論文標題<br>Does debt intensity have an impact on cost behavior? Evidence from Japan | 5. 発行年<br>2020年    |
| 3. 雑誌名<br>Social Science Research Network   | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.2139/ssrn.3734486                                    | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-          |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei and Yusuke Zennyō  | 4. 巻<br>32(4)         |
| 2. 論文標題<br>Retailer Voluntary Investment Against a Threat of Manufacturer Encroachment | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>Marketing Letters  | 6. 最初と最後の頁<br>379-395 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1007/s11002-021-09575-7                                 | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                                | 4. 巻<br>72(11)      |
| 2. 論文標題<br>費用削減投資と指令振替価格：営業部門の顧客志向による影響       | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>企業会計                                | 6. 最初と最後の頁<br>17-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.34615/acc-pr.1 | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難        | 国際共著<br>-           |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei   | 4. 巻<br>41(4)           |
| 2. 論文標題<br>Environmental corporate social responsibility and strategic transfer pricing in quantity competition | 5. 発行年<br>2021年         |
| 3. 雑誌名<br>Economics Bulletin  | 6. 最初と最後の頁<br>2338-2347 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)   | 国際共著<br>-               |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平   | 4. 巻<br>44(1)         |
| 2. 論文標題<br>原価基準振替価格における全部原価計算と直接原価計算の選択 - 価格競争に直面する企業が広告により需要を拡大できるケース - | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>原価計算研究   | 6. 最初と最後の頁<br>169-181 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                   | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                          | 4. 巻<br>80(2)         |
| 2. 論文標題<br>並行輸入市場があるときの多国籍企業における相対的業績評価 | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>産業経理                          | 6. 最初と最後の頁<br>126-136 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-             |



|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei  | 4. 巻<br>id 3611562 |
| 2. 論文標題<br>Does a leading indicator related to a customer improve a firm's profit? | 5. 発行年<br>2020年    |
| 3. 雑誌名<br>Social Science Research Network  | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.2139/ssrn.3611562                                   | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-          |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>福嶋誠宣・濱村純平・井上謙仁                          | 4. 巻<br>28(1)         |
| 2. 論文標題<br>財務データのサンプリングにおける時点設定の問題                | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>管理会計学                                   | 6. 最初と最後の頁<br>117-129 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.24747/jma.28.1_117 | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)            | 国際共著<br>-             |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                         | 4. 巻<br>20         |
| 2. 論文標題<br>並行輸入市場があるときの国際移転価格の設定基準選択   | 5. 発行年<br>2019年    |
| 3. 雑誌名<br>会計プロGRESS                    | 6. 最初と最後の頁<br>1-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei   | 4. 巻<br>44          |
| 2. 論文標題<br>Unobservable transfer price exceeds marginal cost when the manager is evaluated using a balanced scorecard | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>Advances in Accounting  | 6. 最初と最後の頁<br>22-28 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1016/j.adiac.2018.12.001   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                         | 4. 巻<br>61(4)         |
| 2. 論文標題<br>CSRを重視する企業における戦略的振替価格設定     | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>経済経営論集                       | 6. 最初と最後の頁<br>105-125 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>加藤大智・早川翔・濱村純平                | 4. 巻<br>61(1)       |
| 2. 論文標題<br>経営者業績予想におけるコスト予想のビヘイビア      | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>経済経営論集                       | 6. 最初と最後の頁<br>17-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei and Sho Hayakawa  | 4. 巻<br>Paper ID: 93921 |
| 2. 論文標題<br>The optimal choice of a relative performance indicator in product market competition | 5. 発行年<br>2019年         |
| 3. 雑誌名<br>MPRA  | 6. 最初と最後の頁<br>-         |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-               |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                         | 4. 巻<br>27(1)        |
| 2. 論文標題<br>費用削減投資と市価基準振替価格             | 5. 発行年<br>2019年      |
| 3. 雑誌名<br>管理会計学                        | 6. 最初と最後の頁<br>93-108 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-            |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei and Morifumi Hirao   | 4. 巻<br>id 4113715 |
| 2. 論文標題<br>Effects of a socially concerned manufacturer on endogenous timing game in dual-channel supply chain | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>Social Science Research Network  | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-          |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei and Mai Yamada  | 4. 巻<br>id 4093439 |
| 2. 論文標題<br>Lead or facilitate? When should an MBA-educated member decide on an action in team production? | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>Social Science Research Network   | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-          |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei  | 4. 巻<br>ID 3927240 |
| 2. 論文標題<br>Manufacturer encroachment in a product market and common ownership between supply chain parties | 5. 発行年<br>2021年    |
| 3. 雑誌名<br>Social Science Research Network  | 6. 最初と最後の頁<br>-    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>-          |

|   |                  |
|---|------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei   | 4. 巻<br>In press |
| 2. 論文標題<br>Cost-based transfer pricing with the existence of a direct channel in an integrated supply chain | 5. 発行年<br>2021年  |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Modelling in Management  | 6. 最初と最後の頁<br>-  |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1108/JM2-08-2020-0218  | 査読の有無<br>有       |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-        |

|   |                  |
|---|------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei   | 4. 巻<br>In press |
| 2. 論文標題<br>Weight assigned to a rival's profit by an advantaged firm in relative performance evaluation with Cournot?Bertrand competition | 5. 発行年<br>2022年  |
| 3. 雑誌名<br>Managerial and Decision Economics   | 6. 最初と最後の頁<br>-  |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1002/mde.3565  | 査読の有無<br>有       |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-        |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                                | 4. 巻<br>63(1)       |
| 2. 論文標題<br>費用削減投資と市価基準振替価格 - 上流部門の寡占競争による影響 - | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>経済経営論集                              | 6. 最初と最後の頁<br>21-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)        | 国際共著<br>-           |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                         | 4. 巻<br>63(2)        |
| 2. 論文標題<br>相対的業績評価におけるウェイト設定のタイミング     | 5. 発行年<br>2021年      |
| 3. 雑誌名<br>経済経営論集                       | 6. 最初と最後の頁<br>87-100 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-            |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>濱村純平                            | 4. 巻<br>63(3)         |
| 2. 論文標題<br>寡占競争を仮定した経営者の相対的業績評価研究に関するレビュー | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>経済経営論集                          | 6. 最初と最後の頁<br>129-154 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし            | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)    | 国際共著<br>-             |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>Hamamura Jumpei and Kenichi Kurita                         | 4. 巻<br>ID 107173 |
| 2. 論文標題<br>Does stigma against tax avoidance improve social welfare? | 5. 発行年<br>2021年   |
| 3. 雑誌名<br>MPRA   | 6. 最初と最後の頁<br>-   |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                       | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                               | 国際共著<br>-         |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>井上謙仁・尾関規正・瀨村純平                     | 4. 巻<br>e2021(2)  |
| 2. 論文標題<br>財務報告の比較可能性と相対的業績評価：Nam (2020) の追試 | 5. 発行年<br>2021年   |
| 3. 雑誌名<br>会計科学                               | 6. 最初と最後の頁<br>1-5 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし               | 査読の有無<br>有        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)       | 国際共著<br>-         |

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>瀨村純平   |
| 2. 発表標題<br>Disclosure policy for relative performance indicators under product market competition |
| 3. 学会等名<br>日本経済会計学会第5回ワークショップ (オンライン開催)   |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>瀨村純平  |
| 2. 発表標題<br>Dose a leading indicator related to a customer improve firm's profit? |
| 3. 学会等名<br>日本会計研究学会第70回関西支部会 (関西学院大学：オンライン開催)                                    |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>濱村純平・善如悠介   |
| 2. 発表標題<br>Retailer voluntary investment against a threat of manufacturer encroachment |
| 3. 学会等名<br>日本応用経済学会2020年度秋季大会（オンライン開催）   |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>加藤大智・早川翔・濱村純平  |
| 2. 発表標題<br>Does debt intensity have an impact on cost behavior? Evidence from Japan |
| 3. 学会等名<br>日本管理会計学会2020年度年次全国大会（名古屋商科大学）  |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>濱村純平                                |
| 2. 発表標題<br>エビデンス・ベストな研究と理論による予測                |
| 3. 学会等名<br>日本管理会計学会2020年度年次全国大会（名古屋商科大学）（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2020年                                |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>濱村純平  |
| 2. 発表標題<br>Dose a leading indicator related to a customer improve firm's profit? |
| 3. 学会等名<br>日本経済会計学会第37回年次大会（早稲田大学：オンライン開催）                                       |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>濱村純平  |
| 2. 発表標題<br>原価基準振替価格における全部原価計算と直接原価計算の選択 - 競争に直面する企業が広告により需要を拡大できるケース - |
| 3. 学会等名<br>日本原価計算研究学会第45回全国大会（成蹊大学）                                    |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>濱村純平  |
| 2. 発表標題<br>Conformity pressure regarding environment load reduction investment and cost paradox in competition |
| 3. 学会等名<br>日本経済会計学会第36回大会（早稲田大学）   |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>濱村純平・早川翔  |
| 2. 発表標題<br>Optimal choice of relative performance indicator and product market competition |
| 3. 学会等名<br>2019年度日本応用経済学会春季大会（南山大学）  |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hamamura, Jumpei  |
| 2. 発表標題<br>Impact of direct channel on the choice of absorption versus direct costing using cost-based transfer price.       |
| 3. 学会等名<br>2018 Taiwan Accounting Association Annual Conference and Asian Accounting Associations Conference in Taipei（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>濱村純平                      |
| 2. 発表標題<br>並行輸入市場があるときの国際移転価格の設定基準選択 |
| 3. 学会等名<br>日本会計研究学会第77回大会（神奈川大学）     |
| 4. 発表年<br>2018年                      |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>濱村純平                           |
| 2. 発表標題<br>直販を利用する企業における全部原価計算と直接原価計算の最適性 |
| 3. 学会等名<br>2018年度日本管理会計学会全国大会（慶応義塾大学）     |
| 4. 発表年<br>2018年                           |

〔図書〕 計1件

|                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>濱村 純平      | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>中央経済社      | 5. 総ページ数<br>208 |
| 3. 書名<br>寡占競争企業の管理会計 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|



|     |                                 |  |  |  |
|-----|---------------------------------|--|--|--|
| インド | Indian Institutes of Technology |  |  |  |
|-----|---------------------------------|--|--|--|